

# 地域医療構想にかかる具体的対応方針について (当面の病床機能転換等)

和歌山県湯浅保健所  
令和5年10月26日

## 医療機能ごとの病床数の推移（有田保健医療圏）

	2015年7月1日現在（A）						2023年7月15日現在（B）						増減（B）－（A）						
	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	
有田市立病院	153		108	45			153		54	99			0		▲ 54	54			急性期から回復期へ54床転換 （H29.7.1）
桜ヶ丘病院	99				99		99				99		0						
済生会有田病院	184		104	40	40		184		104	80			0			40	▲ 40		慢性期から回復期へ40床転換 （H28.11.1）
有田南病院	71		26		45		71			26	45		0		▲ 26	26			急性期から回復期へ26床転換 （H30.11.1 【24床】） （R1.7.1 【2床】）
西岡病院	120		60		60		120		32	28	60		0		▲ 28	28			急性期から回復期へ28床転換 （H27.9.1）
土屋クリニック	19				19		19				19		0						
はしもとクリニック	19		19				4		4				▲ 15		▲ 15				15床廃止（R5.7.14）
森下整形外科	19		19				0						▲ 19		▲ 19				無床化（R2.1.1）
おおち眼科	4		4				0						▲ 4		▲ 4				無床化（H29.3.15 【2床】） （H30.12.1 【2床】）
しまクリニック	10		10				0						▲ 10		▲ 10				無床化（R3.12.15）
総計（C）	698	0	350	85	263	0	650	0	194	233	223	0	▲ 48	0	▲ 156	148	▲ 40	0	
2025年における必要病床数（D）							495		146	148	201								
（C）－（D）							155		48	85	22								

## 地域医療構想の今後の進め方について（現在の取組）

R5.7.26  
第17回 地域医療構想調整会議  
（有田保健医療圏構想区域）資料

### （１）令和５年１月 今後の方針についてアンケートを実施

#### 質問項目

- ・ 今後担う予定の役割
- ・ 2025年における機能別の病床数 など

### （２）令和５年３月 アンケートの結果を受け、以下の医療機関から対応方針を確認

#### 対象機関と確認時期

- ・ 地域医療構想を策定した平成28年5月以降で不足する医療機能への転換・病床廃止を行った医療機関、又は今後の計画が具体的に決まっていますと発表できる医療機関
- ・ 昨年度の調整会議（令和５年３月２３日）から確認中

### （３）令和５年７月 （２）以外の医療機関から対応方針を確認

#### 対象機関と確認時期

- ・ 平成28年5月以降で不足する医療機能への転換や病床の廃止を行っておらず、今後も現状維持を予定する医療機関（今後の対応について検討はしているものの、具体的な計画がない医療機関も含む）
- ・ 今年度の調整会議（令和５年７月２７日）で説明していただいた上で確認

**注）公立病院は、厚生労働省医政局長通知（R4.3.24付け）に基づき「経営強化プラン」を策定後に協議する**

## 2025年に向けた具体的対応方針（令和5年7月末現在）

	医療機関名 (役割・方向性 A～F順)	2015年7月1日時点〔地域医療構想策定前〕					2025年 予定〔アンケート結果及びその後の対応〕					不足する医療機能への転換など、 主な取組内容(予定含む) (Q3,4)			
		病床数	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	休 棟	役割・方向性 (Q1)	病床数 (Q2)	高度 急性 期	急性 期			回復 期	慢性 期
1	済生会有田病院	184		104	40	40	B 救急拠点型	184		104	80			2016年 (未定)	回復期に転換（実施済） 40床 建替時に病床数を適正化（予定）
2	有田市立病院	153		108	45		C 地域密着型	153		54	99			2017年 (2026年) (2026年)	回復期に転換（実施済） 54床 急性期を一部廃止（予定） 14床 回復期を一部廃止（予定） 19床
3	西岡病院	120		60		60	C 地域密着型	120		32	28	60		(策定前)	※2015年 回復期に転換 28床 病床再編は行わない
4	有田南病院	71		26		45	C 地域密着型	71			26	45		2019年	回復期に転換（実施済） 26床
5	桜ヶ丘病院	99				99	D 療養病床	99				99			病床再編は行わない
6	土屋クリニック	19				19	D 療養病床	19				19			病床再編は行わない
7	はしもとクリニック	19		19			E 特殊な機能	4		4				2023年	急性期を一部廃止（実施済） 15床
	合計（有田圏域）	665		317	85	263		650		194	233	223			

（役割・方向性）

- A 救急拠点型 … 重症患者の救急受入、高度・専門医療 など
- B 救急拠点型 … 年間100件以上の入院を要する救急患者受入
- C 地域密着型 … 軽症患者の救急受入れ、急性期病院からの転院受入、在宅復帰へ向けた医療 など
- D 療養病床 … 療養病床を有する
- E 特殊な機能 … 特殊な医療機能に特化（産科、精神科、障害者医療など）

## 当面の病床機能転換等の一覧（有田保健医療圏）

No.	医療機関名	今後の役割・方向性 令和5年1月 「2025年に向けた対応方針アンケート」より	転換等の内容		転換等の時期 （見込）
1	西岡病院	<b>【C】 地域密着型</b> （ 軽症患者の救急受入 急性期病院からの転院受入 在宅復帰へ向けた医療 など ）	転換	慢性期病床60床のうち、10床を急性期病床に転換 ＜転換後の機能別病床数＞ 急性期42床、回復期28床、慢性期50床	令和5年11月

病床機能の転換・病床数の変更等について

現在の病床機能【概要】		＜令和5年10月1日現在＞			
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率	
急性期	1	急性期一般入院料 6	32	93.8%	
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料 4	28	75.0%	
慢性期	1	療養病棟入院料1	60	70.0%	
計	3		120	77.5%	
(備考)					
R5.04-R5.08実績		《参考》R4年度	R3年度		
・救急件数	84件	・救急件数	206件	・救急件数	217件
・在院日数	16.2日	・在院日数	19.2日	・在院日数	16.8日



今後の病床機能		<令和5年11月1日以降>		
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
急性期	1	急性期一般入院料 6	42	
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料 4	28	
慢性期	1	療養病棟入院料1	50	
計	3		120	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
慢性期病床 60床のうち、10床を急性期病床に転換				

現在の病床機能【詳細】
<ul style="list-style-type: none"><li>急性期病棟に関して、救急応需、一般診療、関係機関紹介に応じる為のベッドコントロールはしっかりおこなっている。 しかし、限られた病床数である為、上記「病床機能・概要」で実績報告する稼働率に表れせない疾患別、性別などから、必ずしも満床でなくとも必要な時に病床確保もできず、他院受入先を探して搬送する現状。 付け加え、新型コロナウイルス感染症や結核、疥癬等々、多種多様な感染症への対応が求められている状況。 充実した地域医療に込めたくとも今少しの一般病床が足りない。</li><li>慢性期病棟に関して、病床 60床のうち、入院患者が占める割合は約 7割を推移しており、空床を有効活用する施策を講じて行かねばなりません。</li><li>回復期病棟に関して、急性期病棟から転棟する患者の割合は患者様の疾病により左右されるところもある。</li></ul>



転換転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
<p>当院は1981年から今日に至るまで長年に亘り、地域の救急需要を牽引してまいりました。 私達は、地域社会の医療向上と、より良質でかつ高度な医療の提供をモットーに、豊かな生活文化の実現に貢献すべく、全職員が力を合わせ使命を全うする病院理念のもと、取り組んできました。</p> <p>近年、高齢化社会、人口減少が急速に進み、介護需要の高まりも数年後を境に需要傾向が下降していく統計予測もある中、第2次医療を地域で取り組む為にも各医療機関が適材適所を発揮し、それぞれが連携を図り、これから制定する第8次医療計画に則り、地域の医療をより充実させていかなければなりません。</p> <p>当院は、地域医療に対する熱意と、これまで培ってきた知識や経験を活かし、地域の公立・公的病院と共に、地域のクリニックや診療所などにより連携を密に取りながら、積極的に貢献してまいります。</p> <p>この度、慢性期病床を10床、急性期病棟に転換することで、緊急性を伴う手術や適時適切な処置の為に、入院に応じるベッドを確保できる為、1件でも多くの救急応需、地域の感染症患者収容など、地域医療に役立ててまいります。</p> <p>また当院には、地域の病院で取り組んでいない高気圧酸素治療装置を完備しており、常勤認定医師指示のもと患者治療に用いている点や、通常、内視鏡検査・放射線検査・検体検査など、自院でほぼ完結している点も大きなメリットです。 ペインクリニックをはじめ、多くの診療サービスも整っており、治療に必要な選択肢の幅を活かし、患者様おひとりおひとりと向き合い、より一層地域医療の為、貢献していく所存でございます。</p>
<p>&lt;地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 有      <input type="checkbox"/> 無      <input type="checkbox"/> 検討中      <input type="checkbox"/> 指定済み</p>

# 医療機能ごとの病床数の推移（有田保健医療圏）

※西岡病院の病床転換を  
反映した場合

	2015年7月1日現在（A）						2023年 月 日現在（B）						増減（B）－（A）						
	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	計	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類 なし	
有田市立病院	153		108	45			153		54	99			0		▲ 54	54			急性期から回復期へ54床転換 (H29.7.1)
桜ヶ丘病院	99				99		99				99		0						
済生会有田病院	184		104	40	40		184		104	80			0			40	▲ 40		慢性期から回復期へ40床転換 (H28.11.1)
有田南病院	71		26		45		71			26	45		0		▲ 26	26			急性期から回復期へ26床転換 (H30.11.1【24床】) (R1.7.1【2床】)
西岡病院	120		60		60		120		<u>42</u>	28	<u>50</u>		0		<u>▲ 18</u>	28	<u>▲ 10</u>		急性期から回復期へ28床転換 (H27.9.1) 慢性期から急性期へ10床転換希望
土屋クリニック	19				19		19				19		0						
はしもとクリニック	19		19				4		4				▲ 15		▲ 15				15床廃止（R5.7.14）
森下整形外科	19		19				0						▲ 19		▲ 19				無床化（R2.1.1）
おおち眼科	4		4				0						▲ 4		▲ 4				無床化（H29.3.15【2床】） （H30.12.1【2床】）
しまクリニック	10		10				0						▲ 10		▲ 10				無床化（R3.12.15）
総計（C）	698	0	350	85	263	0	650	0	<u>204</u>	233	<u>213</u>	0	▲ 48	0	<u>▲ 146</u>	148	<u>▲ 50</u>	0	
2025年における必要病床数（D）							495		146	148	201								
（C）－（D）							155		<u>58</u>	85	<u>12</u>								